作新学院大学女子短期大学部研究紀要 2020 年　第 4 号　pp. 35-41

調査報告

オンライン授業におけるピアノレッスンの特徴と可能性

Features and Possibilities of Piano Lessons in Online Classes

長澤　順・井上　修
Jun Nagasawa, Osamu Inoue

【要約】

これまで、個人指導を軸とするピアノレッスンは、保育者養成課程を含む教育機関においても、また音楽教室のような「習い事」の場においても、対面形式を前提として行われてきた。しかし、指導者と受講者とが「密接」し「発声」を伴う指導を「密室」で行うピアノ指導は、コロナ禍においては最も回避しなければならない授業形態のひとつとなった。本研究では、本学におけるピアノの個人指導形式の授業について、オンラインと対面の 2 つの方法で体験した受講者による評価の調査を通し、オンライン指導によるピアノレッスンの特徴とその可能性について検討した。受講者評価調査の結果、受講者の大半は、オンラインによるピアノレッスンに対し抵抗感は少なかったものの、実際には対面指導を望んでいることが明らかになった。今後の課題として、指導者によるオンライン指導の評価の検討、さらに、オンライン指導を併用した対面式ピアノ指導の実践が挙げられる。

【キーワード】
ピアノ実技、オンラインレッスン、音楽教育、ピアノ個人指導、ICT 教育

Ⅰ．はじめに

2020 年は、コロナ禍により、本学においても多くの授業が実施方法の変更を余儀なくされ、新しい授業のあり方を模索する年であった。それは、音楽という実技科目においても例外ではなく、これまでは対面での個人レッスンしか想定してこなかったピアノや弾き歌いの指導においても、オンラインを使用した方法を試行錯誤しながら進めていく事になった。

オンラインレッスンでは、インターネット通信のタイムラグによる音ズレの問題もあり、離れた場所にいる者同士が同時に音を出すことは非常に困難である。今まで当たり前のように行ってきた方法が通用しない状況で、いかに指導内容を正確に伝える事ができるのか、慣れないオンラインツールとの格闘の繰り返しであった。

このような状況の中で進めていったレッスンだったが、新たな発見も多々あり、対面レッスンが再開された今、改めて気づくことも少なからずあった。本研究では、オンラインと対面によるピアノレッスンを体験することによって得た経験を今後のレッスンに有効に活用していけるよう、受講者を対象にピアノレッスンに関する評価調査を実施した。その結果から、指導方法の違いによる利点や問題点を明確化し、ピアノレッスンのあり方と今後の課題について検討する。

Ⅱ．2020 年度「音楽Ⅲ」「音楽Ⅳ」の概要

1．授業形式と受講者の概要

本学において、「音楽Ⅲ」「音楽Ⅳ」は通年科目となっており、ピアノ技能と弾き歌い技能の習得に特化した内容を個人指導形式で履修する。今年度は、前期（4 月～ 7 月）の全 15 回の授業のうち、第 1 回のみが対面授業で行われ、第 2 回以降の 14 回はオンラインでの実施となった。後期（10 月～ 1 月）は原則として対面形式で実施し、必要に応じてオンラインを活用した。表 1 に授業概要を示す。

表 1「音楽Ⅲ」「音楽Ⅳ」の授業概要

クラス	音楽Ⅲ ABC	音楽Ⅲ DEF	音楽Ⅳ ABC	音楽Ⅳ DEF
履修年次	1 年次	1 年次	2 年次	2 年次
受講者数	60	62	64	65
教員数	14	14	13	13
対面授業の場合の受講者 1 名あたりのレッスン時間（経験者クラス）	15 ～ 18 分	15 ～ 18 分	15 ～ 18 分	15 ～ 18 分
対面授業の場合の受講者 1 名あたりのレッスン時間（初心者クラス）	30 ～ 45 分	30 ～ 45 分	20 ～ 30 分	20 ～ 30 分
教員 1 名当たりの担当受講者数（経験者クラス）	5 ～ 6 名	5 ～ 6 名	5 ～ 6 名	5 ～ 6 名
教員 1 名あたりの担当受講者数（初心者クラス）	2 ～ 3 名	2 ～ 3 名	3 ～ 4 名	3 ～ 4 名

2．授業方法

オンラインレッスンの実施には Microsoft Teams を使用し、第 6 回目以降は Zoom も併用した。Microsoft Teams の授業チーム内に教員ごとのチャネルを作成し、各教員は時間割に従いチャネル内で授業をおこなった。授業方法は、各教員や担当する受講者の通信環境、受講者の経験値やレベルに応じ、下記の 3 つの方法から各教員が選択した。

①課題提出型：受講者が各自で録音・録画した演奏動画をチャネルに投稿し、教員が視聴後、フィードバックを行う。動画やコメントが履歴として残るため、授業時間外の閲覧や他クラスの視聴も可能。

②同時双方向型：Teams や Zoom のビデオ通話を活用し、リアルタイムでレッスンを行う。

③混合型：投稿された動画を教員が視聴し、その後ビデオ通話を用いて改善点などをリアルタイムで指導する。

Ⅲ．授業実践内容

1．オンラインレッスンの導入

既に述べたように、これまで当然のように行われてきた対面でのレッスンが続行できなくなったことで、オンラインによる遠隔レッスンの導入を検討することになった。本学でのレッスンは通常のピアノレッスンとは異なり、5 領域の「表現」に関わるものであるため、

ピアノの演奏技術のみならず、音楽表現におけるフレーズを意識したブレスや、歌詞の内容に基づく世界観を感じて表現していくことも非常に重要な要件である。秋元ら（2020）が指摘しているように、技術の模倣学習を伴う実技科目においては、指導者と受講者とができるだけ近距離に、つまり同じ空間にいることが非常に重要となる。歌詞に対する理解については文章や絵、映像等で価値観を共有することに問題はないが、フレーズ感、特に弾き歌いを行う上でのブレス、またピアノの音色や躍動感などは、やはり画面越しでは伝えづらいことが多かった。また、音符の長さや拍子など、口頭や文章で説明できることには限度があった。

これまでにレッスン経験のない受講者や音楽の苦手な受講者に対しては、正しい音程やリズムを理解してもらうために、一緒にメロディーを弾き、隣で歌いながら指導することが重要である。自分の演奏とどう違うのかを直に実感してもらうことで、受講者は具体的にどこの音が違っているのかを認識し、音の高低やリズムのタイミングなど、徐々に意識できるようになっていく。これは対面レッスンでも数ヶ月、程度によっては数年単位で少しずつ改善を図っていくものである。

教える側もレッスンを受ける側も、インターネットの環境が整っていない状況でのスタートだったため、初めは Teams を使用し受講者が投稿した演奏動画に対してフィードバックを行い、改善が見られれば先の課題に進むという方法で始まった。しかし、口頭ではなく文章化された音についての情報は受講者の感覚に結びつきづらいようで、教員が該当箇所の模範の録画ないし録音を投稿し、それと自分の演奏を聴き比べて間違いに気づいてもらえるよう改善を重ねていった。また、6 回目からのレッスンでは Zoom の使用が可能になった。もともと Teams のビデオ通話でもレッスンを行っていたが、受講者のネット環境によっては Zoom の方がスムーズにつながるケースもあり、レッスン方法が多様化していった。音ズレを起こすため、同時に演奏しながらの指導は叶わなかったが、文章ではなく口頭や実演で説明を行い、受講者が即座にそれを実践に移せたことは、レッスンの効率化においては非常に有意義であった。

2．対面レッスンに戻って

2 年生にとっては通常のレッスンに戻った感覚だったようだが、1 年生にとっては入学後初めての対面レッスンであった。オンラインレッスンに慣れた頃に形態が変わり、余りにも勝手が違うことに戸惑う受講者も多いように見受けられた。また、入学以前の音楽教室等でのレッスンとのあり方にギャップを感じることもあったようだった。

以降では、教員も試行錯誤する中でオンラインレッスンを受講していた受講者たちがどのように感じ何を思ったのか、評価調査を基に振り返っていく。

Ⅳ．調査

1．目的

オンラインレッスンについて、受講者の視点から得た評価や意見、感想を基に、今後のピアノレッスンのあり方を検討すると同時にオンラインレッスンの教育的効果を明確化し、活用の方法や機会を検討する。

2．実施方法

（1）調査対象と調査方法

研究への利用の同意を得た2020年度「音楽Ⅲ」受講者（1年生）122名、及び「音楽Ⅳ」受講者（2年生）129名の計251名を対象とした。調査には、Microsoft Formsを使用し、回答率は1年生が93.4%（114名）、2年生が91.4%（118名）であり、全てが分析対象となった。

（2）調査時期

2020年11月に実施した。

（3）調査内容

①オンラインレッスンと対面レッスンを比較し、どちらが良かったかを1項目5件法で尋ねた。
②オンラインレッスンを受講した感想を、受講形態ごとに1項目5件法で尋ねた。
③オンラインレッスンの授業形態について、1項目4件法で尋ねた。
④オンラインレッスンの良かった点と良くなかった点について、自由記述方式で尋ねた。

（4）調査結果の分析と考察

1）オンラインレッスンと対面レッスンの比較

まず、オンラインレッスンと対面レッスンを実際に受けてみてどちらが良かったと感じたかを尋ねた結果、1，2年生ともに半数以上が「対面レッスン」と回答した。「どちらかといえば対面レッスン」の回答も合わせると、3/4以上の受講者が対面での直接指導に好印象を示していることが分かった。

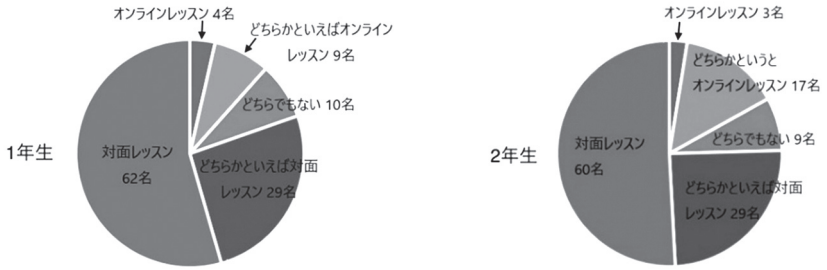

図1　オンラインレッスンと対面レッスン、どちらが良いと思ったか

2）オンラインレッスンを受けてみた感想

オンラインレッスンの感想については、ともに1/4が「良かった」と回答していた。「どちらかといえば良かった」を含めると半数以上の受講者から支持を得ているが、2年生に関していえば1/4の受講者がオンラインレッスンにあまり良くない印象を持っており、対面レッスンからオンラインレッスンに移行した2年生と、オンラインレッスンから対面レッスンに移行した1年生とでは、オンラインレッスンに対する印象が大きく異なっていることが分かった。

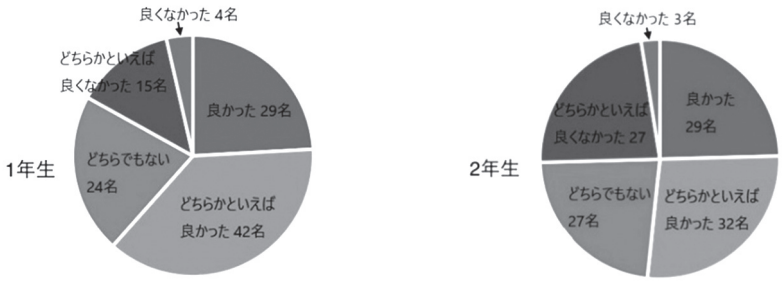

図 2　オンラインレッスンを受けてみた感想

3）対面レッスンを受けてみた感想

対面レッスンの感想については、「どちらかといえば良かった」を含めると、1、2 年生ともに 9 割以上もの受講者が対面レッスンに好印象を持っていることが分かった。特に 1 年生に関しては、良くないという印象を受けた受講者が 1 人もいないことは特筆すべきことである。

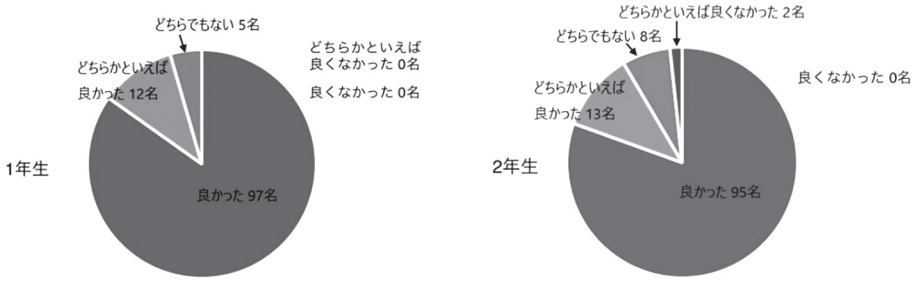

図 3　対面レッスンを受けてみた感想

4）オンラインレッスンの授業形態

オンラインレッスンで経験した授業形態を尋ねた結果、1 年生は動画投稿（課題提出型）、ビデオ通話（同時双方向型）、両方を使用（混合型）とほぼ 3 等分に分かれた。それに比べて、2 年生はレッスンによって手段を使い分けるという回答が多かった。学年によってレッスン形態を変えることは考えにくいため、受講者の Wi-Fi 環境によってビデオ通話が困難な時に動画投稿に変えるなど、担当教員が臨機応変に対応したものと考えられる。

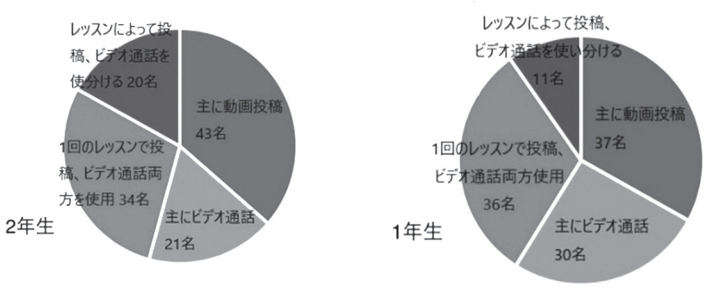

図 4　オンラインレッスンの授業形態

5）オンラインレッスンの良かった点、良くなかった点

受講者が感じたオンラインレッスンの利点や難点を検討するため、自由記述方式で得た回答を、著者2名でKJ法により分析した。その結果、「オンラインレッスンの良かった点」については、220件の回答が7つのカテゴリーに分類された（表2）。「演奏の完成度の高さ」が最も多く、対面レッスンでは緊張感などから失敗してしまう受講者でも、成功例のみを教員に提出することができ、結果として合格曲が増加することから満足度が高いものと考えられる。また、「レッスン時間の確保」が挙がっていることから、逆に対面レッスンにおいては、レッスン時間の短さへの不満があることが考えられる。

さらに注目すべきは、レッスンの履歴を閲覧できることによる「学びやすさ」であろう。対面レッスンにおいては、自分以外の受講者の演奏を聴く機会は圧倒的に少ないが、動画投稿型のオンラインレッスンにおいては、自分以外の受講者のすべてのレッスンを繰り返し自由に閲覧できるという大きなメリットがあった。これにより、現在練習中の曲だけでなく、これから練習する曲の演奏を予め視聴し、さらに教員によるアドバイスを参考しながら予習することにより、特に初心者の自主練習において大きな学習支援に繋がっていることが推察される。また、受講者は自分のレッスンの振り返りも常時おこなうことが可能であることから、指導内容を忘れずに反復練習ができるという利点があることが分かった。

表2　オンラインレッスンの良かった点

カテゴリー	件数（%）	例
1 演奏の完成度の高さ	62（28.1）	・上手に弾けた演奏を投稿できる ・完璧になるまで弾くことができたので、とても練習になった ・ビデオで撮ると完璧にしたいという気持ちがあるので一つひとつの曲の完成度が上がる ・間違えたら何度も撮り直しができたこと
2 レッスン時間の確保	42（19.0）	・投稿形式だったため、時間がそれぞれ1時間半使えた ・その時間内であればいつでも動画を提出して次へ進め、効率が良かった ・何曲でも提出することができ、沢山の曲を進めることが出来たこと
3 練習量の増加	39（17.7）	・通学時間の分をピアノの練習に当てられたこと ・投稿後のコメントを待っている間やビデオ待ちの時に練習することができた ・投稿のために、いつもよりたくさん練習したのでその分ピアノも上達したと思う
4 学びやすさ	37（16.8）	・初めて弾く曲でも、友達の動画を見ることができ、メロディーを知ることができたこと ・投稿動画や先生のアドバイスなどが履歴として残るので、何度も確認することが出来る ・他の人の投稿を見て参考にできることや、復習がしやすいこと
5 緊張感の軽減	20（9.0）	・誰かに見られるということがないため、あまり緊張せずにできた ・先生と関わることが苦手な人でも関わりやすいと感じた
6 感染予防	6（2.0）	・密にならず、レッスンを受けることが出来る
7 その他	14（6.3）	

一方、オンラインレッスンの良くなかった点については、217件の回答が6つのカテゴリーに分類された（表3）。「通信環境」や「音ズレ・タイムラグ」が非常に多く、不安定な環境下で受講していた状況が窺える。また、「意思疎通の困難さ」もおよそ3割を示し

ており、文字化されたアドバイスを受講者が理解し実践することは難しいと感じていることが明らかになった。前述のように、課題提出型（動画投稿）のレッスンにおける「良かった点」のひとつとして、自分が納得いくまで何度でも演奏を撮り直しできる点が挙げられていたが、逆にそれがプレッシャーとなり、心理的に負担となっていた受講者がいたことは看過できない。

表 3　オンラインレッスンの良くなかった点

カテゴリー	件数 (%)	例
1 通信環境	74（34.1）	・電波状況が悪いと途切れてしまうところ ・音声が聞づらいことがあった ・スマホの容量が足りなくなり、先生から来た動画を視聴することが出来なかった ・投稿でもビデオでも携帯の容量が多くなってしまって大変だった
2 意思疎通の困難さ	65（29.9）	・オンラインだと顔を合わせていないので少し分かりにくい ・言葉や文字だけで伝わらないこともあった ・リズムを間違えていても、言葉だけだと理解できず難しかった ・コミュニケーションが取りづらい
3 音ずれ・タイムラグ	35（16.1）	・音のずれがあるので一緒に弾くことができない ・ネット上の会話なので時間差が生じる ・ビデオだとバグが起きやすく、時間が無駄にかかることがあった
4 心理的負担	22（10.1）	・上手く弾けた動画が撮れるまで何度も撮り直さないといけない点 ・思い通りに行かず何回も撮り直すため時間がとてもかかった ・先生の表情が見えないので気を遣い、ストレスが多かった
5 レッスンの質	14（6.4）	・対面に比べるとしっかりとした指導を受けることが出来ないところ ・実際に先生がピアノで教えてくれるところが見えない ・運指や弾き方の表現等具体的な指示を聞くことが出来なかった
6 その他	7（3.2）	

V．今後の課題

今回の受講者評価調査により、ピアノオンラインレッスンは、実技指導の主軸として据えるには、コミュニケーションの困難さやレッスンの質の浅薄さが懸念される一方で、受講者が挙げた「学びやすさ」を鑑みれば、例えば予習・復習用のサブツールとしては十分な有用性が考えられる。今後の課題としては、指導者の視点からみるオンラインレッスンの評価や、対面レッスンに関し受講者が感じている問題点の明確化が挙げられる。コロナ禍の収束まで、遠隔授業が今後も断続的に行われる事態は十分に予想されるため、指導者側が感じるピアノオンラインレッスンの利点・難点と今回の調査結果とを照合し、今後のピアノオンラインレッスンのあり方を検討することは喫緊の課題である。さらに、対面レッスンを実施する中で積極的にオンラインレッスンを併用し、その教育効果を検証することも課題のひとつである。ピアノオンラインレッスンの新たな活用法を模索し、効率的且つ有意義なピアノ実技指導を目指したい。

文献

秋元弦・冨田晃（2020）遠隔授業における「場の共有」：コロナ禍における実技授業「後帯機による手織物」弘前大学教育学部紀要，124，53-62.